

# 年頭の辞



内閣府宇宙審議官・宇宙戦略室長

西本 淳哉

平成26年の新春を迎え、謹んでお喜び申し上げます。

昨年は我が国の宇宙政策にとって節目の一年でした。まず、昨年1月に我が国の新たな宇宙基本計画が策定されました。この宇宙基本計画は、一昨年7月に、内閣府を司令塔とする我が国宇宙政策の新たな推進体制が構築されて初めて策定されたものであり、今後の宇宙政策の方向性を示すものです。

我が国の宇宙開発利用を取り巻く国内外の環境は、前回の宇宙基本計画が策定された平成21年から大きく変化しています。近年においては、欧米における財政の逼迫、中国の台頭、新興国を中心とした衛星保有ニーズの拡大に加え、我が国においては、産業基盤弱体化の懸念、災害対応や安全保障上の要請が高まっています。

また、我が国の厳しい財政事情を踏まえれば、宇宙関連事業の優先度を明らかにした上で、メリハリをつけて資源配分し、宇宙予算の重点化・効率化を目指すことが重要です。

このような背景を踏まえ、新たな宇宙基本計画では、「宇宙利用の拡大」と「自律性の

確保」を2つの基本的な方針とし、「安全保障・防災」「産業振興」「宇宙科学等のフロンティア」の3つを重点課題に挙げ、測位衛星、リモートセンシング衛星、通信・放送衛星、宇宙輸送システムの4つを社会インフラに位置付けています。また、我が国の厳しい財政事情を踏まえて、「宇宙利用の拡大」と「自律性の確保」の実現のために必要十分な資源を確保し、宇宙科学に一定の規模の資金を充当した上で、宇宙探査・有人宇宙活動にも資源を割り当てるという、重点化の考え方を明確にした、メリハリのある計画になっています。

また、宇宙基本計画の中で今後の調査検討が求められている事項について審議を進めるべく、宇宙政策委員会に、宇宙輸送システム部会、宇宙科学・探査部会、宇宙産業部会、調査分析部会を設置し、各分野の議論を深めていただいているところです。

宇宙輸送システム部会では、新型基幹ロケットの開発着手について報告をとりまとめいただくとともに、現在は、「中長期的な観点からの宇宙輸送システムの在り方（長期ビジョン）」についてご検討いただいています。

宇宙科学・探査部会では、我が国における学術目的の宇宙科学・探査の動向等について審議を行い、今後20年程度のロードマップを審議・了承いただきました。

宇宙産業部会では、我が国の宇宙産業の動向及び競争力強化に向けて検討を行い、災害監視に有効なりモートセンシング衛星の複数機の一体的な整備・運用の必要性について意見をおまとめいただきました。

調査分析部会では、欧州、米国、ロシア等、主要国の宇宙政策について有識者ヒアリング等を含めて調査いただいているところです。

こうした各部会の検討を踏まえて、昨年6月に、宇宙開発利用に関する戦略的予算配分方針を策定し、山本一太内閣府特命担当大臣（宇宙政策）から、関係閣僚に通知いたしました。

戦略的予算配分方針は、関係省庁の予算要求に先駆けて、政府全体の宇宙開発利用に関する事業の重点化や効率化の方向性について、内閣府が宇宙政策委員会の審議を経てとりまとめ、各省に提示するものです。各省は本方針に沿って概算要求を行うことが求められます。

平成26年度の概算要求にあたっては、以下の4つの重点化すべき事業を位置付けました。

- 1) 準天頂衛星システムの4機体制を、2010年代後半をメドに整備すること
- 2) リモートセンシング衛星の複数機を一体的に整備し、安全保障・防災に貢献すること
- 3) 日米協力による宇宙状況監視（SSA）の実施体制を整備すること
- 4) 輸送系の全体像を明らかにし、我が国の総合力を結集して、新型基幹ロケッ

トの開発に着手すること

安倍総理からは、平成25年を「宇宙利用」元年とし、宇宙政策を経済成長と産業活性化観点から、関係府省が連携して強力に推進すること、今後の宇宙政策の要諦は産業振興と日米協力・安全保障であること、内閣府の司令塔機能の一層の強化が必要、などのご指示、ご示唆を頂いております。

内閣府は、我が国宇宙開発利用の司令塔として、国家戦略としての宇宙開発利用を、より一層総合的かつ計画的に推進してまいります。

さて、今年は皆様にとってどんな年になるでしょうか。

今年もALOS-2、GPM/DPR、ASNAROなど打上げが相次ぎます。また小型衛星など、我が国でもベンチャー企業の取り組みが注目を集めつつあります。我が国を取り巻く周辺環境を見れば安全保障用途としての宇宙利用の重要性もますます高まるでしょう。宇宙科学・宇宙探査分野も我が国は世界をリードする国のひとつであり続けなければなりません。

宇宙は、どの国も国家戦略として取り組んでいます。激しい国際競争に勝ち残っていくためには国にも企業にも正しい戦略とそれを実行するための意思が必要です。視線を外に向け、目標を高く掲げ、着実な一歩を踏み出せる年にしたいと思います。

最後に、皆様方の御健康と御多幸をお祈り申し上げるとともに、今後の我が国の宇宙航空分野の益々のご発展を祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

平成26年1月1日